

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792710014		
法人名	株式会社コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホームかねやま		
所在地	福島県大沼郡金山町大字中川字沖根原1223-1		
自己評価作成日	平成23年9月26日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会津の山間部に平成18年11月に開所し、5年になろうとしています。周囲には福祉施設・社会福祉協議会が隣接し、田畑が広がるのどかな場所に設置されています。
 開所当初から近隣の方々との交流を行い、利用者も顔なじみの方ができ、自然に挨拶を交わしております。利用者もグループホームでの生活のリズムが取れ、国道から離れて設置していることもあり、周辺の散歩や歩行練習に意欲的に取り組まれています。
 散歩や外出から帰って「あ～帰ってきた」と言う言葉を多く聞くために自宅のような安心できる生活を提供できるよう職員一同日々一人ひとりと向き合い、より良い支援の提供に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1、地域との親交が深く、日頃から近隣の住民が事業所を訪れ、利用者とお茶飲みながら会話を楽しんでいる。又災害対策として、広域消防・職員・多くの地域住民が参加する「近隣協力隊」が結成されており、年2回の総合避難訓練に参加している。
- 2、利用者、職員の笑顔での会話が大家族の雰囲気を出し、近隣住民や利用者の友人・知人が訪れやすい雰囲気となっている。又玄関先には屋外でも訪問客と会話やお茶が楽しめる様に大きなベンチが設置してある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開所当初職員全員で話し合い作り上げたものに運営推進会議での意見を頂き、地域との交流を取り入れたものである。職員は理念を念頭に置き実践につなげている。	利用者が地域の中に溶け込んで本人らしく生活できる支援を理念に掲げ、職員会議等で理念を掘り下げて確認しながら日常のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が所在する地区に部落費を払っている。町の回覧物は区長様が配布くださり、園周辺の畑を作っている方々には野菜を頂いたり、お茶を飲んでいただいたり顔なじみになっており、防犯につなげている。	地域の住民が参加する運動会や敬老会、保育所の運動会などの催しに参加したり、事業所の行事に地域住民を招く等の交流が行われている。又日常的に近隣住民が野菜の差し入れやお茶飲みを訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外泊時はご家族にGH内での支援状況を報告し参考にさせていただいている。運営推進委員で老人クラブ会長がおり、接し方の質問に答えている。毎日の申し送りで認知症の理解を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地区役員の経歴が多様であり、避難訓練に付いて元消防士の区長の意見を頂いたり、包括支援センターの看護師より熱中症について注意点などをお聞きし、職員会議で報告し利用者の体調管理や災害時に役立てるよう話し合った。	会議は定期的開催され、遠方の家族の方の会議出席や日常の地域交流の在り方等の課題や、委員からの利用者の健康管理への提言などの話し合いが行われ運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が町担当者と連絡を取ったり、定期的に町役場を訪問し、状況報告している。各種申請手続きの代行も行い、町担当者も施設を訪問している。	月1回の生活保護の手続きや、介護保険に関する申請等で町担当者を訪問している。また、行政職員は運営推進会に出席のため等事業所に訪れている。会議の中で事業所の実情を把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や日中の施錠はしていない。身体拘束の講習会に参加した職員より職員会議で報告を受け、身体拘束による利用者の身体的・精神的弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。園周辺の出入りは自由にして頂いている。	内・外部の研修を積み、職員は身体拘束が及ぼす悪影響を十分理解している。帰宅願望不穏時は、見守り・寄り添いのケアで、利用者の不安を取り除いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の講習会を受けた職員が職員会議などで報告し、虐待のニュースなども取り上げ、高齢者虐待防止法について理解・遵守に努めた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議などで説明しているが、管理者が一人で対応する機会が多く、他の職員は理解が少ない。現在は権利擁護の制度を利用されている方はいないが講習会に参加し、今後は事業所での勉強会につなげたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を取り、利用料金や施設の特色、看取りに関しても医療連携態勢として町診療所が協力医院であること、夜間の緊急時の対応は他町村の病院か指定の病院に救急搬送になること等を詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に個別に担当職員を配置し、表出できない方の思いを察し、入居者の立場に立った運営を心掛けている。契約時に苦情担当者があることを伝え、玄関にポスターを掲示している。家族面会時には状況報告をし、家族との会話を増やし、話しやすい雰囲気作りをしている	利用者からの要望は、食事の献立に関する「食べたい物」の希望が毎日のように出されている。家族の意向は面会時に利用者との会話の内容などを含め聞き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内の職員会議で意見交換の場を設け、月1回の管理者会議での報告や稟議書にて提案してもらい検討している。提案事項については早急な解答を心掛けている	日常の業務の中で常に職員の意見を聞き取る体制が整っており、利用者の散歩や外出支援を増やすため、日勤帯の勤務時間を早めるなどの変更が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容優良な職員については昇給を毎年実施、賞与は年2回支給、また資格取得者に対して報奨制度有り。向上心を持って働けるよう職員の施設間の異動も行き、それぞれが切磋琢磨できるよう改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加するよう促している。資格取得に対しても積極的に提案し、個人の技術向上につながるよう研修制度の充実に力を注いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症GH協議会主催の研修や管理者会議などに参加し、同業者との交流や情報交換に努め、サービスの質を向上させていくための情報源にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅などで実態調査を実施し、生活状態を確認し、本人の希望されていることや不安を理解し、安心してサービスを利用していただけるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みに来られた段階でご家族には入所申し込みに至った経緯などを伺い、事業所のサービスを施設見学しながら説明させていただき、事前に重なる話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思いをしっかり受け止め実態調査を行い、支援方法を職員会議で話し合い検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者と職員が一緒に出ることは行い、家族の一員として役割を果たせるよう支援している。支援の中で逆に入居者から労いの言葉を頂くこともあり、和やかに毎日を過ごせる関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の定期的な状況報告が家族の負担にならないよう言動に注意して説明している。面会時は家族とゆっくり過ごせるよう配慮し、家族持参の食事は居室で食べていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす知人の面会があり、自宅と同じように過ごしていただいている。なじみの理容室や美容室へも個別に援助している。彼岸などにはお墓参りをして、一人ひとりが築き上げてきた関係を途切れないよう支援している。	利用者が定期的に馴染みの理美容室に出掛ける際の支援や友人・知人・親戚の来訪時の支援を家庭的な雰囲気の中で支援し馴染みの関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員が共有している。利用者同士の相性を考慮し、食事の席などを配慮している。自由にセッティングできるソファを2箇所に分け場面作りをし、ゆっくりくつろげるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方もご家族と一緒に来所されたり、差し入れを頂いたりしている。いつでも気軽に訪問や相談していただけるよう声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のかかわりやセンター方式(C・D)を利用し、本人の思いや希望を聞きだしたり、意思疎通の困難な方には言葉や表情から推し量り、ご家族の情報も得、自分らしさを尊重し、本人の思いに添えるよう努めている。	利用者の思いや意向は、日常の触合いの会話や表情・しぐさ・雰囲気の中から汲み取っている。又家族・友人が来訪時に気付いた内容などを聞き取り把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式(A・B)を利用し、家族に協力をお願いし生活歴の把握に努めている。面会に来られた知人や友人から話を伺うこともあり、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック表により、一人ひとりの生活リズムを把握している。様式の改良にも努め、朝夕の申し送りや情報を伝え、援助につなげている。生活の中でどんなに些細なことでもできる事やわかる事を発見するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で入居者や家族の意見を聞き、本人の思いに添った介護計画の作成に生かしている。また、支援計画の期間終了前に見直しを図り現状に即したケアにつなげている	利用者の心身の状況を分析・評価し、利用者・家族の生活に対する意向を下に、医師の診察結果等も踏まえ、全職員でアイデアを出し合い介護計画の見直し・作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録に本人の言葉や行動の様子を記入し、状態や思いの変化を共有出来るようにしている。また、個別にバイタル表を作成し、身体状況の確認をしている。日々の記録を根拠にしながら介護計画の見直し、評価に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて町外の通院や希望される歯科や眼科受診、その送迎など必要な支援を柔軟に対応し、一人ひとりの要望に応え、満足度を高めるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農作業は困難になってきたが、収穫した野菜や近所の方からの差し入れもメニューに取り入れ提供している。園周辺には温泉施設や馴染みの理・美容院があり、利用を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される病院での受診を継続している。家族付き添いの受診は家族に前もって説明し、サマリーやバイタル表にて状況をDrに報告している。職員が受診代行することは利用契約時に同意を得ており、本人の説明に補足する形で報告し、Drより指示を得ている。	殆どの利用者が職員と一緒に事業所の協力医である「町の診療所」に行き診察を受けているが、家族同行で従来からの「かかりつけ医」で受診している利用者もいる。通院結果は双方で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいないが協力病院の看護師に日常の状態を報告や相談することでアドバイスを頂いたり、Drとの引継ぎをスムーズにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との連絡を密にし、家族に医療機関との情報提供に関して同意を得、直接医療機関との情報交換や相談をし、本人の負担軽減に努めている。また面会をし、本人とのつながりを大事にしたり、事業所内での対応可能な段階で早期退院できるよう病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時や終末期についての話し合い、施設の限界も説明、同意を得ている。今までに終末期の方の支援を診療所、ご家族の協力の元に行った経緯はある。終末期の看取りに対する対応指針を作成し、状態の変化があるごとに本人の思いや家族の気持ちに注意を払い、支援につなげている。	看取り介護は行わない方針を利用者・家族に伝えると共に、終末期を迎えたい場所や希望する医療のあり方について確認書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設にはAEDを設置しており、消防署より応急手当推進事業所として認定を受けている。実際の場面で活かせるよう勉強会も検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し、避難訓練を毎月実施している。地域協力隊は火災通報装置により直接連絡網で駆けつけていただける。職員会議で避難の手順を確認している。災害時の食料や水も施設内に常備している。	年2回消防署と地域の指導と住民協力の下、総合避難訓練を実施している。他に毎月、避難方法の検討や消火設備の点検等の訓練を行い災害に備えている。	リビングの大きく開閉できる掃きだし窓が避難の際の出口として最も有効であるが、外の段差が大きく、避難には危険を伴う構造となっている。可動式のスロープを準備する等を含めた対策が欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域の方々と交流を継続しながら、一人ひとりの個人情報の管理には十分注意している。一人ひとりのプライドを傷つけないような声掛け・対応に配慮している。職員会議などで利用者に対しての対応は検討している。	利用者と馴染みの関係になっても、誇りを傷つけることのないよう、トイレ誘導の声掛けなどに細心の注意を払うなど、利用者を年長者として敬いながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方もおられ、しぐさや表情で汲み取ったり、簡単な選択肢で決定できるよう働きかけている。個別に場所を変え、本人の思いを素直に発せられる場面のを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や水分補給の時間はあるが、入居者のその日の状態に合わせ、入浴や散歩・ドライブなど一人ひとりの思いに配慮し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理・美容室や化粧品などの買い物外出も本人の希望に添った援助に努めている。季節ごとの衣替えや朝の着替えなど自己決定が困難な方には職員と一緒にいき本人の希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者の希望や旬の食材をメニューに取り入れ、それぞれの嗜好を理解しており、肉を魚になど代替品も柔軟に対応している。また食事準備や片付けも入居者と一緒に行い職員も一緒にテーブルに着き同じものを頂いている。	利用者の好みの献立を利用者・職員が同じテーブルを囲み楽しく味わっている。食事の準備や後片付けは、利用者と職員が会話を楽しみながら一緒に行っている。自家栽培の野菜やご近所さんが届けてくれる野菜類も食卓に上る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表の職員共有により、摂取量・栄養のバランスや水分量を大まかに把握している。年3回同法人の栄養士に指導を受けている。体重増加の利用者もあり、摂取量に注意し、調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	高齢者の口腔ケアの重要性を職員が理解しており、毎食後声掛けにより実施している。自分でできる方が多いので時々口腔内の状態を伺いながら清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や本人の習慣を把握し、トイレ誘導でトイレでの排泄を促している。排泄チェック表を利用し、尿意の少ない方にも時間を見計らいトイレの声かけをしている。中にはリハビリパンツを使用することで安心して夜間熟睡できる方もいるのでオムツ使用を減らすことは無理にしていない	日中は排泄介助の利用者は殆どおらず、自立に近い排泄となっている。綿パンツで過ごす利用者も半数いる。夜間は排泄のパターンに合わせ誘導・介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のリハビリ体操を継続し、食物繊維の多い食材の提供で自然排便を促している。中には病院より整腸剤や下剤を処方されている方もいる。食事量や水分量のチェックも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせ、時間帯などをお聞きし個別に入浴している。温泉を希望される方もおり数名で出かけ温泉入浴を楽しまれている。自分で出来るところは見守り、困難な方には介助により入浴していただいている。女性の利用者が多く男性職員の介助を拒まれる方もいる為、同性の職員で行なう等配慮している。	入浴は平均週2回の支援となっている。他に温泉へも出掛け入浴を楽しんでいる利用者もいる。入浴を好まない利用者には入浴を促すタイミングや方法を工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整える為日中の活動量を多くし、夜間の安眠につなげている。就寝・起床時間は大まかであり、それぞれのペースを重視している。休息も自由に出来る様雰囲気作りを努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は管理庫保管している。職員は毎回処方された内服薬の薬指示書を確認し、内服時は安心して服薬できるよう声掛けし、飲み残しの確認し、薬包の回収をしている。利用者に体調の変化が見られる場合は詳細な記録をとり、家族や協力医療機関に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、おかずの盛り付けや食器片付け・食器拭きそして朝の掃除などそれぞれの出来ることを一緒に行い、役割が持てるよう支援している。嗜好品についてはご本人に選択していただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	複数の利用者での散歩やドライブ外出、個別に自宅への訪問・墓参り買い物支援などを行っている。	鶴ヶ城の桜見学や伊佐須美神社参拝、町・保育所の運動会、ドライブがてらの昼食会などホーム全体の取組みの他、利用者の希望に合わせた外出を支援している。又日常的に屋外で自由に外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを所持されている方は5名。管理は難しいので家族同意の上、希望時お渡ししている。買い物時は自分で支払いが出来るよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族もおられる為、電話を希望されたときは対応している。必要なときは便箋などを購入し、手紙を書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	園周辺で四季の移り変わりを観賞でき、園内の壁などには季節ごとに折り紙を作成したものを飾り、その時々写真なども貼っている。空調も利用者様の状態を把握し、こまめに調節している。	玄関・廊下・リビング共、広く明るい。リビングには利用者の書作品や行事の写真が飾られている。リビングの大きく開閉出来る掃きだし窓からは、周囲の住民の畑仕事や山々の四季の移り変わりが望める。利用者はテーブルやソファで会話などを楽しみ寛いだ日々を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで区画しながら自由に座っていただけるよう配慮している。テーブル席も多くあり、自由に移動し会話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅から持ち込んだテーブルや椅子でくつろいだり、自分の作品や写真を室内に貼ったり、テレビやラジオカセットを持ち込み居心地良く過ごされている。個々の居室の使用は本人の希望を出来るだけかなえられるよう家族も交えて相談し、実施している	各居室入り口には各々の好みの色紙に名前が記入され、折り紙が飾られている。室内にはテレビ、鏡台、タンス、家族の思い出の写真などが持ち込まれ、利用者の好みに配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は物(ソファやテーブルなど)を固定せず、利用者のADLにあわせ可動させて一人ひとりの出来ること・わかることを低下させないよう工夫している。利用者の中には夜間は居室内のポータブルトイレを使用されている方もいる。車椅子を使用し、自由に自操されたり、居室間違いをされる方には本人への声掛けや他利用者様の理解を得られるよう声掛けしたり、低い位置に表札を貼り工夫している。		